

認知症疾患医療センター

センター通信



【血管性認知症①血管性認知症とは？】

園原 和樹 医師

Ⅰ. 血管性認知症とは？

認知症診療において、アルツハイマー型認知症に次いで2番目に多い病気が血管性認知症となります。以前は認知症の原因の第一位でしたが、生活習慣病の治療の進歩により現在は減少傾向を認めています。

血管性認知症は、脳血管障害が原因となり脳の機能が障害されて認知機能障害となり、認知機能障害によって日常生活が妨げられる病気です。脳血管障害は、脳の血管に異常が起こり脳の血管が詰まったり破れたりする病気のことで、脳梗塞・脳出血・クモ膜下出血があります。なお、一般的によく使われる脳卒中という言葉には「脳に突然（卒然）中る（あたる）」という意味があり、脳卒中と脳血管障害は同義語（同じ意味を持つ言葉）となります。

脳血管障害の症状には身体障害と認知機能障害があります。身体障害とは、脳血管障害により身体（体）の機能が障害された状態のことで、麻痺・しびれ・感覚異常・めまい・嚥下機能障害（飲み込み機能の障害）などの症状があります。認知機能障害とは、脳血管障害により認知機能が障害された状態のことで、記憶障害・注意障害・実行機能障害（やるべきことの計画を立てて、計画を実行に移すことの障害）・言語障害などの症状があります（認知機能と認知機能障害については「令和3年夏号センター通信」の説明をご確認ください）。また、脳血管

障害では感情コントロールの障害を認めることが多く、うつ傾向・意欲低下・不安・焦り・易怒を認めることがあります。

以上をまとめると、血管性認知症は（1）脳血管障害と関連して発症した認知機能障害があり、（2）認知機能障害により日常生活が妨げられる、（2）感情コントロールの障害を認めることが多いことが特徴となります。

Ⅱ. アルツハイマー型認知症と脳血管性認知症の違い

アルツハイマー型認知症は（1）ゆっくり発病して持続的に進行するもの忘れ（認知機能障害）があり、（2）もの忘れにより日常生活が妨げられることを特徴とする病気です。

アルツハイマー型認知症・脳血管性認知症の2つの認知症では、認知機能障害があり、認知機能障害により日常生活が妨げられることが共通点となります。一方で、（アルツハイマー型認知症と比べて）脳血管性認知症では（1）頭部画像検査で脳血管障害があり、（2）脳血管障害を来すたびに悪化する認知機能障害がある（ゆっくり発病して持続的に進行する物忘れではない）、ことが相違点となります。

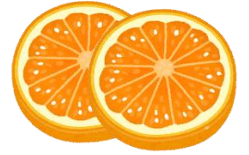


2024年度 認知症月間の取組み



病院正面玄関に
オレンジ色の花を展示

9月21日（認知症の日）
認知症フォーラムの開催
テーマ：地域で作るチームオレンジ



高ボッチ高原
FM 89.4MHz
様と番組制作

認知症特別番組
「一緒に歩もう
認知症の話
2024」

【 認知症に関する検査について 】

臨床検査技師 有賀夏子

臨床検査技師は、日々の業務で様々な検査をしています。検査の大まかな説明は以前にもさせていただきましたので、今回はその中でも認知症と関わりのある検査についてお話ししたいと思います。

認知症やその前段階である「軽度認知障害（MCI）」の多くは、歩行異常や転びやすいなどの、バランス障害を伴うことが知られています。そこで疾患センターでは重心動揺検査というものを行っています。この検査は、身体の変動を測定することでバランスを評価する指標として知られていて、目まいや平衡機能障害の診断を目的に行われます。立位姿勢でどのようにふらついたか、動揺パターンを分析することで病巣の推測や、その程度を判定することもできます。はたまた治療効果の判定に用いることも可能なのです。

認知症の発症・重症化を予防するために、その前段階であるMCIの段階から早期介入を始めるこ

とが重要と言われています。ですがMCIは自覚症状がほとんどない上に日常生活にそこまで支障がないため、本人も周囲も気が付きにくいことから、早期発見が難しいです。このMCIについては、健康保険適用外なので自費にはなりますがアルツハイマー病の元凶である「アミロイドベータペプチド」という脳に蓄積する老廃物を排除する機能を持つ、血液中の3つのたんぱく質を調べる血液検査があります。

日本国内だけでもMCI患者は400万人にものぼり、全世界ではこの10～20倍規模にもなると言われています。認知症発症を予防するためにも、これらの検査でMCIの時点で早期発見・介入することが大切です。



医療法人社団 敬仁会 桔梗ヶ原病院
〒399-6461 長野県塩尻市宗賀1295
電話番号 : 0263-54-0012
F A X : 0263-52-9315

桔梗ヶ原病院認知症疾患医療センター
直通電話番号 : **0263-54-7880**
F A X : 0263-54-7881
Eメール : geriatric-medicine@keijin-kai.jp